

# 県社協のひろば

## 市民参加でIT支援推進を

本会ほかが共催する「パソコンボランティア・カンファレンス IN YOKOHAMA」が、十二月十一・十二日、横浜市港北区の横浜ラポールで開催されました(主催:日本障害者協議会、PSV2004KANAGAWA開催実行委員会)。

全国で、障害者のIT利用・活用支援を行う関係者が一同に介し、情報交流を通じ、悩みや喜び、運営のヒントなどを共有し、研修を深めることを目的として開催された本集会。

当日は、多くのパソコンボランティアを始め、福祉施設職員や障害のある方々、IT企業関係者などが集まりました。

初日には「障害者IT支援・サポートモデル調査」の研究報告会が開催されたほか、障害者のIT支援を考えるシンポジウムなどが開催され、支援者のレベルアップの必要性を指摘する声のほか、継続性や「質」を確保する観点から、支援の担い手がボランティア中心で良いのか。また、専門職とのネットワー



シンポジウムでは関係者や当事者の方々がIT支援に向けた今日の課題を共有し合いました

クをどのように築いたらよいかなど、日頃の実践を通じた意見が活発に交換されました。二日目の特別セミナーでは、滋賀医科大学教授の埜田和史氏が「障害当事者がパソコンを無理に使用することによって起こる二次障害に配慮する必要性」について発表され、リハビリ医学の視点を持つ大切さが確認でき、会場の共感を得ていました。

参加者からは、「現場の不安が実は多くの地域で共通の悩みであることが実感でき、とても有意義だった。一方で、現場だけでは対応が困難な課題もあり、行政での取り組みを期待したい」という声が聞かれました。障害者のIT利用・活用を広げていくため

に、国では、全国的な支援拠点の整備を進めています。県でも、県障害者福祉計画に基づき、来年度から「障害者ITサポートセンター」機能を開設する方向で検討が進められており、IT支援を取り巻く環境は変化してきています。

こうした国・県の動きに加え、本会でも、障害者へのIT支援の啓発やパソコンボランティアの養成など、障害のある方々を含めた県民・市民参加に基づく市町村域での取り組みの支援や二次障害に配慮したIT支援活動ガイドラインづくりなどに取り組んでいきたいと考えています。

(ともしび普及課)

## 平成16年度介護支援専門員実務研修受講試験結果のお知らせ

第7回介護支援専門員実務研修受講試験を、10月24日に相模女子大学・文教大学湘南校舎・明治大学生田校舎の3会場で実施しました。

昨年を約1,000人上回る6,551人が受験をし、その結果合格者は2,312人で、合格率は昨年を若干上回る35.3%でした。

職種(保有資格)別の合格者は下表のとおりですが、介護福祉士の比率が年々増加傾向にあります。

なお、合格者に対する実務研修は1月下旬から、本会かながわ福祉人材研修センターのほか、県指定の研修実施機関で実施されています。

職種(資格)別合格状況

職種(資格)	合格者数(人)		職種別比率(%)	
	平成16年度	平成15年度	平成16年度	平成15年度
介護福祉士	929	708	40.2	37
看護師	500	507	21.6	26.5
相談援助業務従事者	152	100	6.6	5.2
社会福祉士	137	96	5.9	5
介護等業務従事者	113	108	4.9	5.6
歯科衛生士	100	78	4.3	4.1
准看護師	70	70	3	3.7
栄養士	66	55	2.9	2.9
薬剤師	57	46	2.5	2.4
あん摩マッサージ指圧師	31	14	1.3	0.7
保健師	30	21	1.3	1.1
理学療法士	25	26	1.1	1.4
作業療法士	19	13	0.8	0.7
柔道整復師	18	12	0.8	0.6
助産師	16	2	0.7	0.1
はり師	14	17	0.6	0.9
精神保健福祉士	11	7	0.5	0.4
医師	8	18	0.3	0.9
歯科医師	8	10	0.3	0.5
その他国家資格	8	8	0.3	0.4
合計	2,312	1,916	100	100